

議 事 録

会議名	平成26年度第2回寒川町総合計画審議会	
開催日時	平成27年1月27日(火) 15:00～16:45	
開催場所	寒川町民センター3階 講義室	
出席者名、 欠席者名及 び傍聴者数	<p>(委員)</p> <p>飯田 誠(会長)、佐藤一夫(会長職務代理者)、吉田悟朗、山田政博、小栗裕治、鈴木宏文、藤井明男、佐藤 清、熊澤 茂、平本正子、鈴木重徳、鈴木 茂</p> <p>(欠席者)</p> <p>杉山孝一、牧野ゆり子、谷村秀次、島村 繁</p>	
	<p>(事務局) 企画政策課 企画行革担当</p> <p>石井宏明(部長)、深澤文武(課長)、青木裕昭(企画行革担当主査)、吉田史(企画行革担当主査)、吉田慎也(企画行革担当主任主事)、三澤忠広(企画行革担当主任主事)、遠藤孝(企画行革担当主任主事)、鈴木俊輔(企画行革担当主任主事)</p>	
	<p>※傍聴者 2名</p>	
議 題	<p>(1) 寒川町総合計画後期基本計画施策進行管理・評価シート(案)について</p> <p>(2) 寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画第2次実施計画策定の進捗状況について</p>	
決定事項	<p>議事-(1) 寒川町総合計画後期基本計画施策進行管理・評価シート(案)について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</p> <p>議事-(2) 寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画第2次実施計画策定の進捗状況について 【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</p>	
公開又は 非公開の別	公開	〈非公開の場合その理由(一部公開の場合を含む)〉

1 開会 * 議事までの間、石井部長が司会進行	
2 議題 〔議事進行：飯田会長〕	
議 事	(1)寒川町総合計画後期基本計画施策進行管理・評価シート(案)について
	飯田会長 はい。それでは、議題に入ります前に一言ご挨拶申し上げます。 本日は、委員の皆様方におかれましては、ご多忙中にもかかわらず、本審議会にご出席賜り、感謝申し上げます。 本日は、今年度2回目の審議会となりますが、前回は、町民アンケートの調査結果及び今年度から実施しています施策評価の中間報告を受けるとともに、第2次実施計画策定の進め方について事務局から報告を受け、皆様からご意見を頂戴いたしました。 本日は、前回中間報告のあった施策評価の最終的な取りまとめ結果と実施計画策定の進捗状況について報告を受けるとともに、皆様からのご意見等をお聞きしたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。
	それでは、議題に入りたいと思います。 議題（1）寒川町総合計画後期基本計画施策進行管理・評価シート（案）について事務局から説明をお願いいたします。
	《事務局から、寒川町総合計画後期基本計画施策進行管理・評価シート（案）についての概要を説明。》
	飯田会長 議題（1）について事務局からの説明が終わりました。質問、ご意見等ありましたらお願いします。
	佐藤(清)委員 1つ伺いして宜しいでしょうか。 沢山の指標があり、総括的に整理して頂いて、とても分かり易くなったと思う。ただ、1つ伺いたいのは、最初の施策の総合評価について、ABCDと4つの区分で評価されているのですが、評価の視点、施策が推進されているかどうかという事と、それを踏まえた成果があがっているか、という2つの観点でABCDに区分されている様ですが、これはどの様にして施策は推進されている、或いは成果があがっていると結論付けられたのか、基本的な部分で恐縮ですが、その考え方について教えて頂きたい。
	深澤課長 総合評価としてABCDの4段階で評価しておりますが、これについては別添資料2をご覧ください。別添資料2につきましては、各施策毎の評価シートが出ております。例えば、2ページの道路網の整備でございますが、こちらの施策にぶら下がっている事業の進捗状況に対する内部評価として妥当性、効率性、有効性といった観点で全ての事務事業について内部評価を行いました。この内部評価と町民アンケート調査、各施策に設定された指標を用い、またそこに対する現状・課題等を掲げながら総合的に判断した中で、総合評価としてAと評価しているものです。
	佐藤(清)委員 施策にぶら下がっている事務事業の実施状況、町民アンケート調査の評価、目標指標についての達成度、これらを総合的に見てABCDの評価をされているということですか。
	深澤課長 はい。
	佐藤(清)委員 分かりました。ありがとうございます。
飯田会長 関連して1つ。ABCDの4段階の評価の中で、「施策は推進されていないが、成果はあがっている」とありますが、これはどういった判断をするのですか。	

青木主査	<p>総括の資料の5ページをご覧ください。今、指摘のございました、評価区分Bの「施策は推進されていないが、成果はあがっている」がどういった状況かということでございますが、こちらに該当する施策としましては、5ページ下段の左側の点線で囲まれた「緑化の推進」になります。こちらについて具体的に説明致しますと、この施策には6つの事務事業がぶら下がっています。その事務事業の評価結果が別添資料2の15ページになります。15ページ中段の「3. 施策に係る事務事業のH25年度の実施状況」の欄を見て頂きますと、6つの事務事業がぶら下がっておりますが、こちらの有効性の評価をみて頂きますとF・B・A・E・E・Zということで、各事務事業における指標の達成度が大変低いという結果になってございます。Zは未着手という区分になりますので、未着手であったり、成果が全然あがっていなかったり、特別な事情があったりということでございますが、施策に設定された指標の達成状況を見ますと、H26年度の目標値に対してH26年度の予測値となりますが、全てイコールということで、目標は達成していることとなります。このことより、施策の目標は達成しているが事務事業レベルで見るとあまり推進されていないという結果になってしまっていることから、評価区分Bに位置付けられたという状況でございます。</p>
飯田会長	<p>判断がしにくい状況になっていますね。我々が見ると、そういった状況があるのかとなってしまいます。成果があがっているのであれば施策はいらないのではないかとといった話にもなってしまいますので、誰が読んでも分かるような評価の解説が必要ではないかと思えます。 他にありますか。</p>
小栗委員	<p>1点宜しいでしょうか。 先ほど、評価の手法についてご質問が出たと思いますが、項目を立てて評価をする事は非常に良いことだと思いますが、まだ評価のやり方がよく分からない。例えば、工業の振興はC評価で、農業の振興はA評価となっておりますが、その内容について別添資料1の14ページを見ると、工業の振興についての判定を見ると上から◎・△・○となっており、農業の振興は○・△・○となっているなかで、なぜ、農業の振興がAで工業の振興がCになったのかという部分がよく分からない。これを見ると本当にABCDの評価が正しいのか疑問に思ってしまう。</p>
深澤課長	<p>今回は施策評価という事で、今まで事務事業評価は行っていたものの、初めての試みでございました。そうした中で、どういった評価がいいのかという事で、事務事業を積み上げる、アンケートを使う、元々設定している指標を使う、これは元々設定していた指標ですから良いのですが、総合評価となった場合にそれぞれの分野においてでた評価がアンマッチな部分もございまして、それを最終的には定性的に評価をした結果でAからDの区分に位置付けをしております。今回の評価の反省点という部分でもあるのですが、総合的な視点の中で判断をしておりますが、見る角度によっては若干のばらつきもあるかと思えます。今後については、こういった部分についても定量的に判断できる指標を基に総合評価をすべきと考えておりますが、現段階での仕組みとしては、定性的な総合評価という中で若干の不具合もあるとの認識でおります。そこについては今後、評価の熟度を高めていきたいと考えてございます。</p>
小栗委員	<p>PDCAなど評価をするという事は非常に大事だと思います。それだけに、誤解のないように、今、定性的というお話がありましたけど、ある程度定量的に、誰が見てもおかしくない指標というの必要なのかなという気がします。或いは、目標値についても、例えば、農業の振興であれば、新規就農者数の目標が2人という設定で本当に良いのかなど問題は色々出てくると思います。目標値の設定についてもしっかりと実態に合った形、誰が見てもこれだったら総合評価でAだねとなるような形に近づけて頂ければ非常にいいのかなという気がします。町の状況を見ていると農業振興は本当にAでいいのかと疑問を感じる部分がある。それは項目や目標によって変わってくるんだと思いますけど。もう少し、細かい項目がそれぞれの項目について必要になると思う。町全体の課題や、今日はそこまで細かい項目は必要ないのかもしれないかもしれませんが、実際の評価の中では、きめ細かい項目があってもいいのかなという気もしますし、先ほど言ったように定量的に、誰が見ても判断出来るような内容を入れて頂ければと思います。</p>

深澤課長	ご意見ありがとうございます。まさにその通りでありまして、我々もこの様に指標を設定してきたものの、例えばこの指標を統計データ、農林業センサスや経済センサスといったところの誰が見ても客観的に判断出来る様な統計データを使用するなど、指標の設定の仕方についても今後研究を重ねていきたいと考えておりますので、宜しくお願いします。
飯田会長	評価をする以上は目的を明確にする必要があると思う。そういう事で、しっかりとした評価結果を出せるような手法を考えないといけないと思います。
平本委員	評価の基準がABCDと載っているんですが、別添資料2の評価シートの方にはFとかZがでていますよね。最初に説明して頂いた総括の中では、Zは未着手など説明があったのですが、こちらにはその説明がないので、こちらを見ただけでは分からないのではないかと思います。Zまでの説明の記載は出来ないのでしょうか。
青木主査	別添資料2の進行管理・評価シートは施策評価の結果となります。施策評価についてはAからDの4段階で結果を出しておりますので、シートの中にAからZの記載がないとのご指摘かと思えます。これについては、1ページにシートの見方という部分がございます、そのページの下段にシートの見方としまして、事務事業の評価に関する説明が記載されております。大変見にくいとは思いますが宜しくお願いします。
平本委員	分かりました。
鈴木(茂)委員	よく分からないので教えて欲しいのですが、施策と事務事業という分けがあるのですが、総括の13ページの一番下にかかれている「職員一人ひとりの意識へ定着させる環境づくりを行っていきます。」という事は、どういう施策か分からずに事務事業をやっていたという解釈が成り立ってしまうのですが、如何ですか。
深澤課長	ご指摘の部分でございますが、総合計画においては当然、施策が目的、事業については手段でございます。目的を達成するために事業を展開している訳ですので、その明確な目的を掲げて、そこに向かってどの様に事業を展開していくか、その成果をどうとっていくかということでございますが、各事業毎に予算編成をしている中で若干、手段が目的化している様な風潮が見られた部分もございました。今年度の春先から、全事業をヒアリングする中で、指標、H25年度の実施状況をヒアリングした訳でございますが、中には若干目的についての考え方が薄まっている部分もあったという反省の中から、何のために事業を打っているのか、どうやって目的に寄与するのか、そこを突き詰めてヒアリングを実施したつもりでございます。目的に対する手段である事業の推進について各職員とも話し合いながら進めて来ましたので、今後とも根付かせて行きたいと考えております。
鈴木(茂)委員	今のお話はかなり致命的な欠陥ですよ。目的が分からなくて、ただ仕事をしていけば良いんだという形になってしまうのは。ただ、それはそれで気づかれたと言うことで、いいのですが、では、環境づくりとは具体的にどういった事を言うのでしょうか。
深澤課長	今後とも毎年、事務事業評価を進めていきます。そうした中で、常日頃からどういった形で、何を達成するのか、事業にはインプットとアウトプットがありますので、そこについての自己責任をしっかりと果たして貰うように事業の検証の中で話を進めていきたいと考えております。
飯田会長	宜しいですか。他にありますか。
佐藤(一)会長職務代理者	総括の施策評価という事で色々出ておりましたが、今回の評価というのは数値化をして、それに対する達成度合いをパーセントで表しており、数値化することで分かり易く、達成度合いも定量的に分かるという様な捉え方をするのだと思いますが、そういったものは客観的に出来ているのではないかなと思うのですが、その中でこの施策は数値化することが正しいのか、といった振り返りはこの項目の中にあつたのかなかったのか聞きたいと思えます。
深澤課長	ヒアリングの中で、それぞれ目的を達成するための事業、こうしたものについては、指標を設定しながら進めてきたところではございますが、今この3年間で振り返ってみますと、実施計画を進めた中で指標設定が好ましくなかったという部分もございました。こうした部分については、どうやって目的に寄与するか、それを明確にするための指標はどの様なものを置くか、そこについての改善を図っているところでございます。今後については、事業のあり方を見直しながら、どういった指標を設定するか、第二次実施計画の策定に向けて改善を図って参りますので、宜しくお願いします。

佐藤(一) 会長職務 代理者	質問したのは、数値化出来ないのではないかとという項目なのですが、所謂、安全安心を優先した形で考えたときに、例えば、交通安全・防犯対策の充実のところで交通事故が目標280件に対して212件でした、となっても実際に事故は起きている訳で、これを達成と捉えるのが町の施策として正しいのかということである。安全安心などは限りなくゼロに近い形を目指し、その中にまだ出ているものに対しての取組が必要なのではないかと思います。それは刑法犯罪や火災もそうだと思う。これを今よりも良くなれば良しとして二重丸が付くという考え方自体が議論されていないと、数値化して達成度合いを測るのは難しいのではないかと思います。
深澤課長	今年度、交通安全・防犯対策の充実につきましては、外部評価にかかっております。そうした中で、正に今言われた部分についてご指摘を受けました。我々としましては、指標を固めた限りそれを達成しようということですので、交通事故は不幸な出来事でありますので、現実的にはゼロというのは中々難しいものの、極力減らしたい、降下させる指標という事で、そこに向かってどれだけ努力していくかという事のなかで設定した指標でございます。本来はゼロがいいというのはその通りでございますが、実現可能な数字を掲げていくというのも一つの考え方だと思いますので、こういったことで指標化されたものでございます。 また、刑法犯罪についても、全ての刑法犯罪が行政の取組によって減少するものではないと思います。殺人や強盗、こういった部分は中々難しいと。しかし、窃盗や振り込め詐欺に対する注意喚起といった部分については行政としてやっていかなければならない部分ですので、そういった部分に特化しながらどうやって減らしていくのか、正に今言われた通りで、どう減らすか、どういう方策をとるかというところの中で議論を尽くしていくべきだということで、この指標については、こういった指標を掲げながら、別に内部指標を設けるということで設定しております。そこについてはまた改めてご紹介出来ればと思っておりますので、宜しくお願いします。
飯田会長	他にございますか。
鈴木(重) 委員	個人的な関心なんですが、総括の6ページに土地利用の適正化がC評価とありますが、寒川も都市化が進み、調整区域が中々見直しがされない、これは町だけで見直すのではなく、県が都市計画の決定をするんだと思いますが、縦貫道もでき、市街化が進んでいるなかで、土地利用について都市計画的な見直しは近い将来としてどの様な方向性なのか。
深澤課長	土地利用の適正化という事でございまして、現在、寒川町には田端西地区に特定保留区域がございますが、そういった市街化編入と合わせまして、県の方でも神奈川県土地利用計画という上位計画を持っています。先日も説明会がありましたが、この中で、人口減少社会の中で、集約的な都市環境が必要だということで、今までは調整区域から市街化区域へ編入ということでしたが、人口減少社会の中では市街化区域から調整区域への変更も考えられるのではないかとこの投げかけもされているところです。そういった中で集約型社会を作っていくためには、土地利用の適正化を今後とも図って行かなければならないという事で県の方からもお話がございまして、県の土地利用計画と合わせながら、整開保、整備、開発及び保全の方針、また、都市マスタープランといったものの中で、寒川町にとって相応しい土地利用がどれであるのか、都市計画審議会等の審議の中でも議論を頂きながらどの様な土地利用をはかって行くのか、総合計画の本編においても必要に応じて区域区分は変更すると記載しておりますので、状況によっては変更して参りたいと考えております。 直近の課題と致しましては、既に取得しております田端地域の特定保留区域の市街化編入に向けて調整を進めていきますので、そういった中では区域区分の変更といったものも行われていくものと考えております。
鈴木(重) 委員	そういった働きかけは地域からそういった声があるのか、それとも町として市街化の見直しという中でやっているのか、その辺はどうなんですか。地域からの要請があるのか、総括的に見て寒川のそういったところにメスを入れていかなければならないのか。
深澤課長	両方あると思っております。県土全体の均衡ある発展ということで県がお話をされていますので、寒川町においてもそういった土地利用の用途循環といったものも視野に入れながら、その辺は検討しなければなりません。また、地域住民の声というのも当然、反映させなければなりませんので、双方から検討しなければならぬと認識しておりますので、宜しくお願いします。

飯田会長	宜しいですか。
鈴木(重)委員	はい。
飯田会長	他にございますか。
鈴木(宏)委員	<p>今回、評価結果が出てAに区分される割合が高いということで、単純に考えれば、非常にしっかりとやって良い結果が出たという見方も出来るのですが、一方で、設定した目標が直ぐに達成できる様なものとか、自分で一生懸命やらなくても結果がでてしまうようなもの、先ほどB評価の話もあったと思いますが、項目毎に見ると直接的に仕事をしなくても他の部分が努力することで結果が出てくるようなもの、例えば、寒川町での人数とかそういった部分は努力がどこに結果として表れてくるのか、計り知れない部分がある。そうすると、目標設定したときに妥当性等は検証されていると思うのですが、難易度という点も見っておかないと、A評価だから良かったという事になってくると目標を低く設定すれば評価は高くなってしまいます。こういった方向に進んでしまうと、評価制度としては反対方向に進んでいることになってしまうので、立てた目標についてはそういった内容も良く吟味したうえで、より良い評価が出来る方向に持っていかなければならないと思います。今年初めての施策評価ということで、そういった部分に多少ばらつきがあるような気がします。目標設定の部分に難易度をどの様に見るか、少し考えて行かないと、端から見たときに、そんなのやらなくても結果が出るのではないかと、大変な目標を掲げているね、といった様々な意見が出てくると思います。本来的な評価制度のあり方は高い目標に挑戦して、そこから反省点を見つけて管理していくというのがあるべき姿ではないかと思えます。Aという高い結果がでてしまうと、良かったという事でそこから何も生まれてこないのではという事も少し考えて行かなければならないポイントではないかと思えます。今年全てをお話しても仕方ないとは思いますが、是非、そういった点についても結果を見るときには振り返って頂きたいと思えます。</p>
深澤課長	<p>ご意見ありがとうございます。まさにその通りでございまして、そもそも目標設定をする時に、努力をすれば達成可能な範囲で設定してくるわけですが、実際のところ、これだけの施策を実施するにあたっては当然、町の財政力というものもあります。こういった中では、実際に入ってくる歳入見込みを立て、それに見合った事業を掲げながら、予算だけではなく、手法を工夫してどうやってそれを達成できるのか、そこには確かに難易度というものが存在するとは思いますが、そういった財政的な裏付けを持ちながら設定をしていきたいと思っております。</p> <p>なお、これについては設定したから、達成したからという事ではなく、次のステップに向かうための1つのマイルストーンだと思っていますので、ここからさらなる改善が図られるよう努力して参りたいと考えております。</p>
飯田会長	宜しいですか。
鈴木(宏)委員	はい。
飯田会長	その他の意見がなければ議題(1)については終結したいと思いますが宜しいですか。
委員一同	はい。
(2)寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画第2次実施計画策定の進捗状況について	
飯田会長	<p>続いて、議題(2)寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画第2次実施計画策定の進捗状況について、事務局から説明を求めます。</p> <p>《事務局から、寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画第2次実施計画策定の進捗状況について、概要を説明。》</p>
飯田会長	<p>議題(2)について事務局からの説明が終わりました。</p> <p>ただいまの説明に対し、ご意見・ご質問がありましたらどうぞ。</p>
鈴木(重)委員	<p>新規事業について興味があるのですが、新規の中に統合などもあるのですが、全くの新規事業はいくつあるのでしょうか。</p> <p>また、説明の中で時代の要請や経済状況によって新しい事業があるとの説明でしたが、それはボトムアップなのか、トップダウン、町長の公約からきているものなのか分ければ教えて頂きたいのですが。</p>

深澤課長	<p>新規事業の件数につきましては、後ほどお答えさせていただきます。</p> <p>新規の立案のプロセスでございますが、これまでもまちづくり懇談会など色々な場面で町民と接する機会がございました。そういった中で、提案して頂いたものを精査しながら新たに構築する、また、国や県、近隣市町村の動向、先進事例の中で寒川町の特色にあったもの、そういったものを念頭に置きながら担当課において立案するものもございます。</p> <p>また、状況によっては町長の発案によってトップダウンとして下りてくるという部分もございますけれども、基本的には担当課からのボトムアップでございますが、町長から検討するように指示された中でボトムアップして多くの事業の成り立ちとなっています。</p> <p>町長の公約という部分でございますが、基本的に総合計画は行政計画として成り立っているわけでございますが、町長の立候補当時の考え方につきましては総合計画の重点プロジェクトの中に町長の方針を練り込んでいる部分もございますので、それが具体的に事業の中に落ちているという中で、総合的に管理されているという事になります。</p>
青木主査	引き続き新規事業の関係になりますが、完全な新規事業は資料中に記載の15事業となります。
鈴木(重)委員	新規(統合)や新規(分割)もありますが、これらの事業は15事業に含まれているのですか。
青木主査	含まれていません。
鈴木(茂)委員	事業数が約70事業減っていることになりませんが、事業を1つの仕事と見れば、単純に仕事が2割強減ったということになりますが、それに関する経済効果、言い方が失礼かもしれませんが、人の数を減らしてもいい、効率化を図ることにより財政的に優位な事があると考えのですが、その考えで宜しいでしょうか。
深澤課長	<p>事業統合ということで、事業数が減ったという事でございますが、先ほども申し上げたとおり、目的に対して手段である事業を細分化していたものを類似事業については統合して指標を共通化したことにより事業が減っているという事でございます。例えば、資料の中で「広報活動事業」という事業がありますが、こちらにつきましては「広報さむかわ等発行事業」と「広報活動事業」を統合したということで、事業の目的の趣旨が基本的に同じものについては事業を細かく分ける必要がないとの判断の中で統合させて頂いております。こういった中で、事業数の大幅な減少が図られているということで、基本的には仕事を減らしたということではないとご理解して頂きたいと思っております。</p>
鈴木(茂)委員	<p>財政状況が非常に厳しいといった中では、似通った事業を統合して既存の人数を減らして効率化を図ったとの事であれば結構町民に受ける内容だと思うのですが、今の説明の様にただ名称だけを括って統合したというだけでは、何も変わらないじゃないか、ということにしかならない。我々税金を納める側にサービスの向上があるのか、或いは事業をスリム化することでその中には実体的にそうすることで、今まで1の力で10の仕事をしていたものを0.8の力で11の仕事をするというのが業務の改善だと思うし、そういった姿勢を行政側が打ち出すのは町民にとって非常に分かり易い。ところが、今の説明では事業の数を少し変えただけとしかならないのではないですか。</p>
深澤課長	<p>見方としては事業統合しただけじゃないかのご指摘でございますが、先ほども申し上げたとおり、目的に対する手段である事業がいくつも細分化されているのは効率的ではない、その担い手である職員については全く変わらない事業の中で業務を進めるという中では、そういった削減効果は中々得られないという部分もあろうかと思っております。</p> <p>今、鈴木委員が言われた、事業のスクラップアンドビルドの部分だと思いますが、そういった部分につきましては、ヒアリングの中で事業自体はなくなるもの、手法を変更したとか、予算措置の中身で変更したという部分もございます。また、それに伴って指標等を変更しているものもございまして、一概に事業統合、事業の減少だけでそういったものは出ていないという状況になってございますが、当然、効率的な事業の執行のあり方についてもヒアリングの中で議論して参りましたので、そういったものについては予算措置の中でお話させて頂ければと思っております。</p>

飯田会長	<p>言いたい事は、効率化したことでどの位の経費が節減出来たという事を総合計画の中に謳っても良いのではないかという事だと思います。そういうものが明確に出てくるような改革をしましたとか、こう改革することによってこれだけの経費が削減出来ましたという部分も統合する以上はあっても良いのではないかとの意見だと思うのですが、それでよろしいですか。</p>
鈴木(茂)委員	<p>行政側の努力によって仕事の効率が上がったのではなくて、効率化が上がった＝経費が節減出来たという事を町民に見せることによって、町民も我々も協力しなければならないと思う。それをただ一概に予算が厳しいからといって2割、3割カットするという事を私が関わる事業はやられている。それはそれで我々は耐えますけれども、我々が耐えるだけではなくて、行政側も仕事のやり方によってこれだけの経済効果が生まれていますとやってくれば、我々納税者側も行政側に感謝しますとなる。そういったメッセージは私もここに長く住んでいますが、聞いたことがないので、是非、今回新しい年度の中で変えて行くのであれば、そういったメッセージは町民にとって非常に素晴らしいニュースだと思いますので、そういった総合計画を期待したい。</p>
飯田会長	<p>総合計画による効果、或いは町民に対する広報、そういう分野が強調されても良いのではないかという意見だと思います。</p>
深澤課長	<p>ご意見ありがとうございます。そういった視点で町民の方々に説明することも必要だと思いますので、頂いた意見につきましては持ち帰りまして、今現在も進めております査定に活かしていきたいと思っております。</p>
飯田会長	<p>予算については、予定が出ていますけれども、地方譲与税や交付税など目的によって配分されるものによって、多少なりとも変更があるということも言っておかないといけないのでは。</p>
深澤課長	<p>先ほど担当から説明のありましたとおり、今、歳入推計を出しておりますが、こちらの時点については平成26年10月17日となっております。今月に入ってからでございますが、国の方から地方財政計画が発表されました。そういった中で、譲与税等の見込みが示されましたので、それに合わせて平成27年度予算を組むこととなります。それに合わせて次年度以降の分についても過去の推移等を参考にしながら今後の歳入規模がどうなのかを推計し、今回の総合計画の財政計画を見直して行きますので、現段階でこちらに出ているものにつきましては、既に数字が変わりつつあるものでございますので、その辺はご了承頂ければと思います。</p>
飯田会長	<p>他にございますか。</p>
熊澤委員	<p>施策体系の平成27年1月27日現在の暫定版の部分で、新規事業で6頁の真ん中に「健康福祉総合センター検討・建設事業」が新規として出ています。それから高齢者地域ケア体制の充実ということで、「在宅医療推進事業」ということで、これも時代に応じた重要な事業だと思います。それから7頁の右側で、子育て支援事業の中の「不育症治療費助成事業」、その下の「地域子育て環境づくり支援事業」が新規として出ています。それから、9頁の真ん中で、防災資機材の充実で「浸水対策事業」ということで新規で入っていて、これは昨年、一昨年の台風で浸水が出たことに対する施策だろうと思います。それから10頁で「自転車駐車場整備事業」という事でこれも新規ということで真ん中あたりに出ています。それからその下のコミュニティ活動で「協働事業提案制度推進事業」という事で出ています。それから11頁右側で「ボランティア活動促進事業」ということで新規、あとは12頁右側で「町営プール庭球場整備事業」、これは統合とあるので、整備するのか、維持管理するのかちょっと分からないのですがこういうものがある。あと15頁の「観光資源創出事業」という事で新規とあって、項目を見る限りでは、時代に合わせた取組になっていて、中身は見えていないので分かりませんが、私としては期待したいと思っています。</p>
飯田会長	<p>他にございますか。</p>
吉田委員	<p>先ほどの議題であった話で、前後してしまい申し訳ないのですが、事務事業の効率性の評価区分のところA、D、Eとあるんですけども、効率的でないものや効果が見込めないものについては廃止することも必要だと思います。この評価区分の中には、A、D、Eの他に「廃止」や「他の方法を模索すべき」といったものを入れるべきではないかと思いますが、如何でしょうか。</p>
青木主査	<p>確かに我々が作業を進める中で、そういった事業が全くないかと言われれば、ありませんとは言えない状況でございます。今年度については、この形で進めさせて頂き、委員から頂きましたご意見につきましては、今後検討致しまして次回に活かして参りたいと考えております。</p>

深澤課長	若干補足させていただきます。 例えば、効率性の部分でございます。これが、広域行政で行う事により補助金を獲得できる事業、こういったものを単独で実施していたという部分もでございます。ただ、広域行政はお互いの合意が必要でございますので、新たな広域連携を模索するというようなことも各担当にヒアリングの際には投げかけております。こういった部分が反映されれば補助金を獲得することができ、より安価で事業が出来るという事も効率性の一つと考えて、今現在投げかけているところでございます。
飯田会長	他にございますか。
佐藤(一) 会長職務代理者	説明の中で説明されたか分からないのですが、第2次実施計画に対して6つの重点プロジェクトが出てきているのですが、1次実施計画の時に5つの施策目標があって、政策が12項目あってという事が体系の説明であったと思いますが、6つの重点プロジェクトというのはこういった考え方で体系の中に含まれているのか、その辺を説明して頂きたいのですが。
深澤課長	重点プロジェクトの位置付けという事でございますが、基本的には各分野毎に1章から5章まで部門がございまして、その中で、横断的に考えて行くものが重点プロジェクトでございます。それぞれ5つの方向性が出ておりますが、それを施策を横串にしたと考えて頂ければと思います。実際の事業につきましては、重点プロジェクトをどう展開していくかにつきましては、それぞれの分野毎に事業が存在しております。ですから、最終的にこの重点プロジェクトがどうであったのかという事につきましては、重点プロジェクトに位置付ける事業、それに関わる関連事業、こういったものを各分野から抜き出して評価して行くという事になりますので、今の段階ではお示し出来ませんが、最終的にはお示し出来る様に進めて行きたいと考えております。
佐藤(一) 会長職務代理者	計画の策定にあたってはその辺のところは上手くイメージされている様な体系イメージ図が必要だと思います。是非、その辺の所を添付出来る様な形でお願いしたいと思います。
深澤課長	ご意見に従いまして、次回の会議ではお示し出来る様努めて参りたいと考えております。
飯田会長	他にございますか。 その他になければ議題(2)についてはこれで終結したいと思います。

6 その他

飯田会長	続きまして、4.その他でございますが事務局より何かありますか。
深澤課長	本日は貴重なご意見・ご提言をいただき、誠にありがとうございました。本日頂きましたご意見等については、今後の実施計画策定業務や事業の進捗管理において、しっかり活かしていきたいと考えております。 それでは、事務局より1点、事務連絡をさせていただきます。 先ほどの議題の中でも若干触れさせていただきましたが、次回の第3回総合計画審議会の開催のご案内でございます。机上に配布しております次回の開催通知をご覧ください。次回の審議会につきましては、大変ご多忙中申し訳ございませんが、来月2月18日(水)で現在調整を進めているところでございます。次回につきましては、これまで作業を進めております第2次実施計画(案)、また、本日問われたご意見等についても合わせて提出出来る様に整えて参りたいと思いますので、そちらについてご説明申し上げます。事務局からは以上でございます。
飯田会長	ただいま、事務局より次回の本審議会の開催について説明がありましたが、この件について何か確認事項等ございますでしょうか。
熊澤委員	時間は同じ位の時間帯ですか。
深澤課長	基本的には、同じくらいの時間で開催出来ればと考えております。
飯田会長	宜しいですか。 年度末という事で、皆様大変お忙しく、特に議会もありますので2月18日(水)の15時からの予定という事でございますので、予定に入れておいて頂くようお願いします。
佐藤(清) 委員	先ほど資料番号2の中では2月20日予定となっておりますが、18日の方でいきたいという事で宜しいですか。
深澤課長	はい。

	飯田会長	<p>その他意見等がなければ、これで終結いたします。 以上をもちまして本日の議題は終了いたしましたので、事務局へお返しいたします。</p>
7 閉会		
	石井部長	<p>ありがとうございました。 本日はお忙しいところ長時間にわたりまして、ご審議いただき、誠にありがとうございました。先ほど課長の方からもお話がありましたけれども、本日頂きましたご意見等につきましては、次回お答え出来る様な形をとりたいと考えてございます。 また、先ほど議題の「その他」においてご案内申し上げましたが、次回は今年度最後の審議会として、平成29年度までの3年間の実施計画（案）をお示しする予定でございますので、会長をはじめ、各委員の皆様方におかれましては、次回の本審議会へのご出席につきまして、特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>これを持ちまして、平成26年度第2回総合計画審議会を閉会いたします。 ありがとうございました。</p>
資料		<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料番号1 寒川町総合計画後期基本計画第1次実施計画 平成26年度施策評価による総括 ・ 資料番号2 寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」後期基本計画第2次実施計画（平成27年度～29年度）策定の進捗状況について ・ 別添資料1 「平成26年度施策評価による総括」における目標指標及び達成見込値等一覧 ・ 別添資料2 平成26年度寒川町総合計画後期基本計画施策進行管理・評価シート（案） （平成25年度実施事業分） ・ 別添資料3 総合計画後期基本計画第2次実施計画体系（案）
議事録承認委員及び 議事録確定年月日	飯田 誠 会長	(平成 27 年 3 月 16 日確定)